

新年にあたり

農林水産部参事兼所長 中村 紘夫

皆様、明けましておめでとうございます。

21世紀の幕開けでありました昨年は、米国同時多発テロ事件や国内初のBSEの発生など思いも寄らぬ事態が相次ぎ、私たちが期待した新世紀の第一歩とはかけ離れた1年でありました。

農林業においては、担い手の減少、農林産物の価格の低迷、消費者ニーズの多様化など大きな変革期にあります。

このような状況に対応して、昨年、県の新たな農業・農村振興の基本方針である「うつくしま農業・農村振興プラン21」と「うつくしま農村整備プラン21」を策定しました。

そして、その中で南会津地方版を策定し、当地方の農業振興を図ってまいりました。

その結果、昨年は、少しずつではありますが着実に、この振興目標に向って歩み出した年でした。

「南郷トマト」のブランドで全国に名が通っている夏秋トマトは、従来西部地域中心の栽培でありましたが、平成13年からは東部地域でも本格的な栽培が始まり、栽培農家数、栽培面

積ともに増加しています。

そば、アスパラガス、りんどう、宿根かすみそう、会津地鶏などについても生産拡大、産地育成のための様々な取り組みがなされました。

ほ場整備、農道・農業用排水路整備など生産基盤の整備も進みました。

今年は、この動きを加速させ、当地方の農業・農村の着実な発展を図ってまいります。

森林林業では、昨年10月、当地方の森林づくりを民間主導で推進するため「南会津・森林野（もりの）会」が設立されました。これは「当地方の恵まれた森林を育み、自然を守りながら、健全な姿で後世に引き継いで行く」ことを目的にした森林ボランティアの活動推進組織です。

今年は、「南会津・森林野（もりの）会」との連携を図りながら、「緑と水の源泉地域」としての森林づくりや地域づくりを推進してまいります。

今年も、より一層のご支援とご協力をお願いします。

今月のトピック

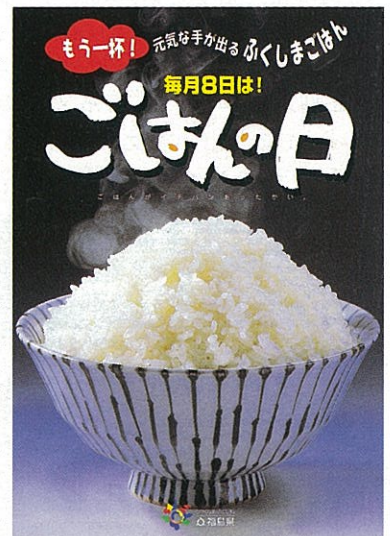
「健全な食生活南会津地方推進協議会」設立会議が開催されました

12月25日に田島町で、県、町村、消費者、食品取り扱い関係者、生産者、農業関係団体等の代表を委員とした「健全な食生活南会津地方推進協議会」設立会議を開催しました。これは、国で策定した「食生活指針」を普及・啓発するとともに、消費者と生産者間で密接な交流・情報交換を促進し、地域の食生活見直しの取り組みや、地域食文化の伝承と地域農産物の活用を推進するために設置したものです。

委員からは、「南会津地方は比較的和食中心の傾向が強く長寿ではあるが、若い世代に食生活の乱れが大きいのが心配」、「売っている豆腐、納豆、味噌等の主要な食品においても原料の大豆は外国産のものが多く、安心して食べられない」、「食事の大切さを家族みんなが認識し取り組む必要がある」等の意見が出され、学校給食への地元農産物導入における課題についても議論されました。

協議会では検討した結果を施策に反映させ、更に今後、「食生活指針普及ボランティア」による研修会の開催や、3月8日には読売新聞大阪本社論説委員の三木健二先生を招き『食文化の一世紀をたどる・・・この絶妙なバランスを伝えたい』と題した講演会を開催する予定です。

(地域農林企画室)



みなさん、日本食を見直しましょう!

平成13年度南会津地方経営戦略セミナー ～戦略MG（マネージメントゲーム）を開催！！～

12月4日から5日にかけて南郷開発総合センターを会場に、管内の若手生産者とそのパートナーを対象に、会津若松市の原木昇税理士を講師に開催しました。

研修は3グループに分かれ、ゲーム（ゲーム盤を使っての模擬生産販売）、決算書からの生産原価、損益分岐点等の資産方法を学びました。

原木先生から、「経営感覚を学んでほしい。世の中の動きを的確につかみ、計数に強くなってバランス感覚を体験し、農業経営の実践に生かしてほしい」との話があり、演習に入りました。

どのグループも売り買いの取引が交錯し、気合いの入った「競り」が繰り広げられました。結果は、倒産寸前の会社、自己資金を倍に伸ばす会社といろいろでしたが、参加した青年クラブ員らは、「経営能力のレベルアップが図れた」等ゲームに満足する意見が多く出されました。

今年、山内喜伸さん（只見町梁取）が最も成績が良く、原木先生からの表彰状が手渡されました。

（農業普及部）



白熱したマネージメントゲーム

昨年に続き、南会津にグリーン・ツーリズムコーディネーターが誕生！



12月21日、地域グリーン・ツーリズムのまとめ役として活躍するコーディネーターを目指した「福島県グリーン・ツーリズムコーディネーター育成塾」の修了式が行われ、この日、管内から田島町の佐藤洋一さんに修了証書が手渡されました。

育成塾ではコーディネーターの役割から企画書の作成、実践までのノウハウを2年間（計11回の講義）にわたって学び、この度19名のコーディネーターが無事終了されました。

これで、南会津管内には佐藤さんを含めてグリーン・ツーリズムコーディネーターは6名となりました。

（地域農林企画室）

◀新たな19名のグリーン・ツーリズムコーディネーター

「みんなで創る農業・農村3A運動」南会津地方推進本部設立会議が開催されました

12月25日に田島町で、県、町村、消費者、食品取り扱い関係者、農業関係団体等を構成員とした「みんなで創る農業・農村3A運動」南会津地方推進本部設立会議が開催されました。

「3A」とは、「安全」「安心」「アグレッシブ（積極的）」それぞれの頭文字「A」を取ったもので、持続的に発展する農業の構築、健全な食生活への貢献と自然・環境との共生、活力とうるおいのあるむらづくりを積極的に推進する意味が込められています。

会議では、農林業の現状と問題点、今年の新たな動き、「うつくしま農業・農村振興プラン21南会津地方計画」を実現するための今後の運動方針について意見交換が行われました。

（地域農林企画室）



安全、安心、アグレッシブが合い言葉！

郡山市で木材フェア開催される



すばらしい逸品が並びました

年の瀬を迎えた12月14日から16日にかけて、福島県の主催により、郡山市のビッグパレットふくしまにおいて、「ふくしま木材フェア」が「地場産品フェア」とともに開催され、約1万人の来場者で賑わいました。

今回のフェアでは、来場者が郷土の森林で育まれた木材・木製品とふれあうことで、木の良さを理解してもらい、木材の需要拡大を図ることを目的として企画されたものです。

南会津管内からは、川田太鼓工房、北星木材工業、福島県北越チップ協同組合が参加し、会津木地師の生活を描いた壁掛けや木目の美しい広葉樹の大型テーブル、環境に優しいバーク堆肥等、南会津郡の豊かな自然から産まれた逸品の数々が展示されました。

来場者は、今では言い伝えに残るばかりとなった木地師の生活習慣に思いを巡らせたり、広葉樹の美しいテーブル等に触れて、木製品のもつ温もりを感じていました。

（森林林業部）

残したい特産品 ー天然砥石ー

田島町農林課

かつて、町の特産品の一つに天然砥石があります。明治期の第4回内国勸業博覧会で、品質優良として有功賞も受けており、生産も盛んであったようです。

現在では、一般に合成物が主流となりましたが、以前には日用品として身近なものでした。

特に農家は、どこも農耕馬を飼っていたため、馬草刈りは毎日の日課であり、鎌研ぎ砥石は常に腰につけていました。

砥石には、砂岩の粗砥・凝灰岩の中砥・粘板岩の仕上げ砥とありますが、町内で産出するものは中砥がほとんどです。

凝固岩は全国的に分布するため、各地方で採取されていますが、粒子の粗密や純度・固さ等によって品質が変わるため、採取場所の見極めには苦労したようです。

町内で砥石を産出する場所は、滝ノ原の獅子小屋（俗称：砥石山）、朝日岐、竜沢、永田の館平岳、中荒井の太田沢、針生の愛宕山、栗生沢の後山等が代表的ですが、滝ノ原地内以外は、いずれも粒子が粗く固すぎることから、大量の生産には至らなかったようです。

滝ノ原の砥石山は、産出量も多く、手軽に採取できることから、地元の人達の農閑期の稼業として昔から生産されていました。

その後、トラックの普及や鉄道の開通により、遠方への出荷が出来るようになってからは、専従者も増え機械力も入ったため生産量も大幅に増えました。しかし、

当時の生産設備では、砥石の主成分である珪酸の粉塵を吸い込むことで起こる塵肺（職業病）疾患が避けられず、長期にわたって仕事を続けられない事情や、合成砥石に押されたことにより、その生産は、現在停止状態となってしまいました。

だが、品質の優れた天然砥石の手応えは、合成物にはない味わいがありますし、また、製造設備にしても、現在では、水や粉塵機を使うことで、粉塵をまったく出さない方法もあります。

砥石山の天然砥石を、そこでしか産出できない特産品の一つとして、これからも残しておきたいものです。



機械採り（左側）、手採り（右側）

特集!

森林整備地域活動支援交付金制度の創設について

昨年、森林・林業基本法が37年ぶりに改正になり、木材の生産を主体とした政策から、森林の有する多面的機能の持続的発揮を目指した政策に変わりました。

この新しい基本法の理念を具体化した政策として、森林整備地域活動支援交付金制度が創設されることになりました。

この交付金制度は、農業関係の中山間地域等直接支払制度の林業版として、平成14年度から実施すべく国で準備中であり、県においてもその準備を進めているところです。

近年、木材価格の長期低迷等林業経営が苦しく、森林所有者が自己負担をしながら森林の保育管理を行っていくことは困難な状況になっております。

このまま森林の保育管理を放置すれば、森林の荒廃を招くことは明らであります。

適切な森林の整備を通じて森林の有する多面的機能の発揮を図る観点から、森林所有者等による森林施業の実施が確保されるよう、育成林の面積に応じて交付金を交付する制度です。

交付金を受けるためには、森林所有者等が森林施業計画を作成し、計画的に手入れ作業等（下刈、雪起、つる切、枝打、除伐、間伐）を実施することが必要で、その場合10,000円/ha程度が5年間にわたり、交付されます。

なお、交付金の交付を受けるには、町村長との協定を結ぶ必要があります。

本制度は、まったく新しい制度であり、おおいに利用されて森林の整備が進み、森林の公益機能を発揮させるとともに、林業の健全な発展につながることを期待されます。

くわしいことは、町村、南会津農林事務所森林林業部までお問い合わせ下さい。

（森林林業部）



何とやるにしても、考えてばかりいてなかなか行動できなかったのですが、今年は、自分に自信をもって、いろんなことにチャレンジしたいと思います。

農業振興部臨時事務補助員
渡部 由希子



私は歯医者が大嫌いなのに、私の親不知はコシヤクにも斜めに生えており、こいつを抜くには歯茎を切り裂き歯を砕いて取り除くらしく、悲しいけど今年中に決着をつけたいです。

農業振興部 主事 市下 貴之



健康管理に注意して、じっくり確実に行動していきたいと思っています。

森林業部 副主査 伊藤 博久



今年はいろいろな面で変化の大きな、節目の年になりそうですが、一步一步着実に前進していきたいと思っています。

企画部 副主査 吉津 健三



今年が五回目の年男である。健康に留意し、一日一日と大切に行動したいと思えます。

農業普及部 部長 丕木 保雄



～研修会・講習会等お知らせ～

内 容	月 日	場 所
① 農業機械研修：アーク溶接基本	2月13日(水)～15日(金)	農業短期大学校
② 農業機械研修：トラクタ保守点検整備	2月20日(水)～21日(木)	農業短期大学校
③ 農産加工研修：大豆加工	2月21日(木)	農業短期大学校
④ 農業機械研修：トラクタ基本運転	2月25日(月)～28日(木)	農業短期大学校
⑤ 農産加工研修：小麦粉加工	3月1日(金)	農業短期大学校
⑥ 南会津地方健全な食生活推進講演会	3月8日(金)	田島町「丸山館」
⑦ 農業機械研修：トラクタけん引	3月11日(月)～14日(木)	農業短期大学校

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 地域農林企画室 TEL 0241-62-5866
農業普及部 TEL 0241-62-5262

…福島空港利用のお願い…

福島空港は、国内就航先に札幌・函館(季節便)・名古屋・大阪・広島西・福岡・沖縄の7路線、また、海外就航先に上海・ソウルの2路線があります。無料駐車場完備の福島空港までは、田島町から車で1時間半、全国・海外へ短時間でのアクセスが可能です。今年も福島空港をご利用下さいますようお願いいたします。



あて先 〒967-0004
福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1
南会津農林事務所 地域農林企画室
TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256
E-mail m-nourin@akina.ne.jp
ホームページ http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真(撮影：円谷)
二岐山の雪化粧(下郷町)



古紙配合率50%再生紙を使用しています
この広報紙は古紙配合率50%再生紙とSOY(大豆)インキを使用しています。

